リフォーム・ホームレスキュー
国・実・通・信
NO.130号
2月22日発行号
編集 国実女子部
くにみ
国実
佐久市中込3611-170
TEL.0267-64-1822
国実 検索

左官という仕事

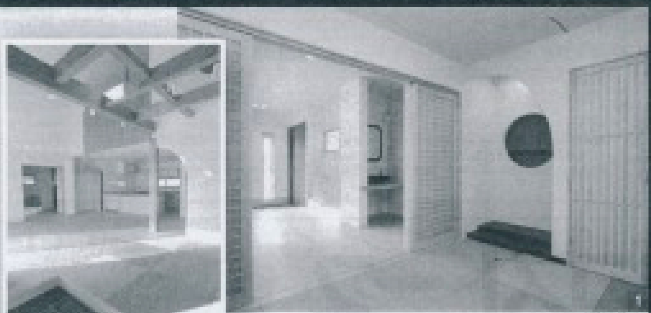
バッタリ小屋の外観

作り手の発想次第で仕上げの可能性は無限に広がる。幾多のイメージが重なり合うその瞬間、空間を変えるほどのエネルギーがほとばしる。

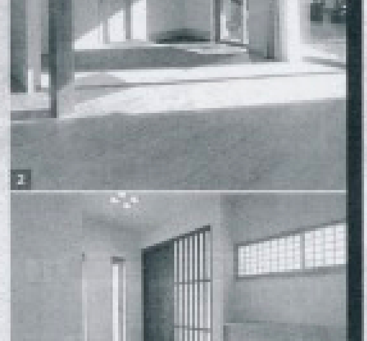
左官の世界は奥が深い。土壁一つとっても、すさ・土・粘土、この配合の選択肢は無限に広がる。その上、塗り方・磨き方も様々である。かつて左官屋は、このように様々な素材の組み合わせと、塗りの技術の中から、自由に大胆にオリジナルを生み出していた。今若手の左官屋が熱い。規格化された今までの左官のイメージを払拭しようと、ユニークな表現や技術を駆使し、かつての独創性を今一度「コテ」に込める。

【飛騨高山の茶室】

国内でも3本の指に入る著名な左官屋がプロデュースしたという事で、視察に行ってきました。山の中腹にあるバッタリ小屋を、左官技術で茶室に改装したもので、その圧倒的な独創性と、杉の一枚板、藁すさの土壁が4・5畳ほどの空間を心象風景と見間違うほどの精度に引き上げていた。立ち尽くすばかりでした。


1

2


3

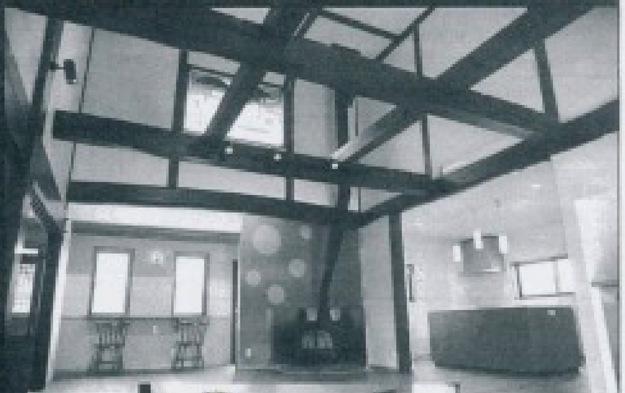
新築工事

西妻神の家

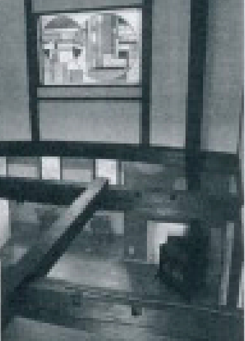
○2018年12月竣工

内装仕上げ材としての珪藻土は、秀逸であることはわかっていても、なかなか工期・コスト・職人との段取りが折り合わず、部分施工が一般的ですが、こちらのお宅ではお客様のご協力もあり、ほとんどの壁を珪藻土で仕上げをさせていただきました。

1 6畳和室／床の間の丸いニッチの縁取りは、まさに左官ならではの仕上げ。和室入り口は引き分け戸になっていて、玄関から和室までが一つの空間になる。2 吹き抜けの高窓から、差し込む春のぬくもりが無垢材の床を照らし、なんの音ともつかないざわめきとなって天へ押し上がる。3 木製玄関サッシと地袋の和紙がさらなる和を引き立てる。


1

2


3

4

改修工事

りんごの家

○2018年11月竣工

数十年に及ぶ日々の巡りと季節の循環。家はどんなに年老いても、暮らしの環を止めることはしない。今新たな息吹を吹きこまれ、その当たり前を映し建っている。

1 ストーブ裏の壁は、敷地の土を使用した掻き落とし工法によるもの。丸い造形が、土の素朴さと相まって空間に溶け込んで行く。 2 手洗い／トイレの扉の小窓には、りんごをあしらったステンドグラスを入れました。 3 大胆に空間を彩るステンドグラス〔ガラス工房「アキ」制作〕。 4 奥様こだわりのオープンキッチン。